

「王の舞」の系統を継ぐ 安曇川の春祭り

4月～5月ごろは、市内各地の神社でさまざまな春祭りが行われます。今回は、その中で、福井県若狭地方の「王の舞」の系統を受け継いでいるといわれる安曇川の春祭りを紹介します。

安曇川町常盤木の三重生神社の春祭り（写真①）は、近年では4月29日が祭礼日となっています。

【写真①】三重生神社の春祭り



【写真②】箕島神社の春の祭礼



【写真③】国狭槍神社の春の祭礼

等と呼ばれる「王の舞」の系統を継ぐ神事です。

起源は稲作に関係する芸能

「王の舞」とは、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、主に大規模な神社の祭礼などで、田楽（田植えを楽器や歌で囃すこと）から始まった芸能（踊り）や獅子舞に先立って演じられていた芸能で、現在も福井県の若狭地方に多くの事例が残っています。一般的には、

赤い鼻高面（はなだかめん）を被って前半は鉾（ほこ）を持ち、後半は素手で四方を鎮めるように舞い、それを太鼓や笛で囃します。ただ、祭礼の中の神事の一つとして行われるようになると、祭礼の場を祓（はら）い清めることを目的に演じられることが多くなり、少しずつ形態を変化させながら、各地に伝播していったと考えられています。

「王の舞」に関係する神事

三重生神社で現在行われる「天狗」では、中学生の男子が木製の鉾（ほこ）を手に持ち、鼻高面（はなだかめん）を付けて、本殿と拝殿の間に立ち、鉾（ほこ）を左脇に抱えて高く飛び上がる振りを行います。さらに、その後に演じられる獅子舞と併せて、古くから伝わる神事とされています。

また、安曇川町三尾里の箕島神社の春の祭礼（写真②）で行われる、地元で「棒振り」と呼ばれる神事も、同じく「王の舞」の系統を受け継ぐものと考えられます。5月3日に行われる現在の祭礼では、簡略化されている点もありますが、鉾（ほこ）を持って静かに動く振りは、「王の舞」との共通点が見受けられ、この地域で古くから引き継がれてきた神事であることが分かります。

さらに、5月4日に安曇川町下

小川の国狭槍神社の春の祭礼（写真③）で行われる「三々九度の式」も、「王の舞」に類似する神事です。ここでは、鼻高面（はなだかめん）をつけた男性が鉾（ほこ）をもって辺りを祓（はら）い振りを行った後、獅子舞が演じられます。

当時の文化交流を今に伝える

このように安曇川では、現在も複数の神社の祭礼で、「王の舞」の系統を受け継ぐ神事が行われています。「王の舞」が若狭地方で多く演じられていることから考えると、高島市域、特に安曇川流域周辺地域と若狭地方との深い文化的交流の歴史をうかがい知ることができます。

図文化財課 ☎（32）4467

編集者

少しずつ気温が暖かくなり、春の訪れを感じる季節となりました。私が小さい頃は、よく祖父母と一緒に山へ行って、野草や山菜を摘んで遊んでたのを思い出します。仕事をしていると昔と同じように気軽に外へ出てみよう！とはいかないもの。でも、せっきくの暖かい時期！家のまわりを少し散歩するのもいい気分転換になるのかなと考えています。もしかしら、ハコベやハルジオンなど小さな春を身近に見つけられるかもしれませんね。（E）

広報たかしま

平成27年

4

月号
No.183

発行▼高島市

編集▼政策部秘書広報課

〒910-1001 高島市新旭町北畑のの番地

☎ 0740 (25) 8000 (代)

http://www.city.takashima.lg.jp

mailto:t-info@city.takashima.lg.jp



追加指定の文化財

神と仏の世界

「棕川の懸仏群」

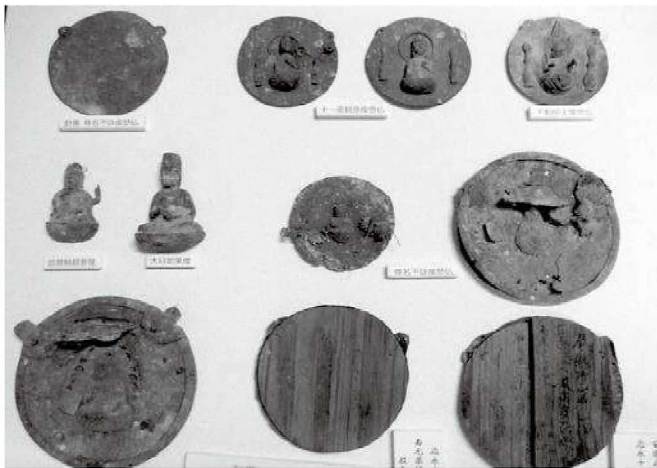
高島市教育委員会は、高島市文化財保護審議会の答申を受け、本年3月25日、「棕川日吉神社の懸仏群」155点（昭和63年指定）に加え、棕川山神社の懸仏群97点を高島市指定有形文化財（工芸品）として追加指定し、名称および員数を「棕川の懸仏群」252点に変更しました。

高島市指定有形文化財に指定 棕川山神社の懸仏群

【写真】 棕川山神社の懸仏群

懸仏とは、円形板の中に仏・菩薩・明王などをあらわしたもので厨子や堂社の中に吊り懸けられたことから、明治時代以降になつて付けられた名称で、古くは「御聖体」・「御正躰」と呼ばれていました。

今回追加指定となつた山神社の懸仏群は、大半が薄銅板打ち出し像を打ち出し装飾を施した薄銅板に針金で固定するタイプのものです。製作年代は、懸仏の量産化が進む室町時代頃と見られます。（下写真参照）



中世民衆の願いを今に伝える

一部に残る墨書銘には「子孫繁昌」、「現世安穩」、「衆病疾除」等の文字が見え、中世の民衆が切実な願望をしたためて、懸仏を奉納したことがうかがわれます。工芸品としては簡素な造りながら、当時の人々の信仰の形態が分かる貴重な資料であります。また、棕川の懸仏群は、平安時代後期から鎌倉時代・南北朝時代・室町時代といった懸仏の変遷をみてとれる一級の貴重な資料といえます。

懸仏を護り繋いだ棕川の人々

懸仏の多くは明治初年の神仏分離、廃仏毀釈の嵐が吹き荒れるなか、その多くが焼却・廃棄されてしまいました。他地域で見られた懸仏には社殿の解体修理の際に床下等から発見される例が多く見られます。しかし、今津町棕川の人々は、それまでの信仰を思い、廃棄することなく、ひそかに歴史の表舞台から姿を消させ、嵐が静まったあと、ふたたび元の社殿に戻したのでした。

神仏が同居する

日本人の宗教観を表す文化財

12月24日にクリスマススイブを祝い、31日に除夜の鐘を聞き、元旦に神社に初詣をする。家に神棚と仏壇が同居する日本人の精神生活。懸仏は神と仏を同様に拝んできた日本人の宗教のあり方を、最もよく示す文化財といえるのではないのでしょうか。

マキノ資料館ではこれらの資料を企画展「有形文化財追加指定記念「棕川の懸仏群」として5月31日まで開催しています。

図文化財課 ☎(32) 4467

編集感

5月3日にはいよいよ世界同時マラソン「ウィングスフォー ライフ ワールドラン」が日本で初めて高島市で開催されます。スタートが夜8時だということや、ゴールが追いかけてくるというルールなど一風変わったマラソン。どのようなものになるか非常に楽しみです。ぜひ広報担当として写真を撮りに行きたいと思っています。選手として出場される皆さん、世界を目指してがんばってください（＾＾）／（S）

広報たかしま

平成27年

5

月号
No.184

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒074-0156 滋賀県高島市新旭町北畑5-5-5 番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉t.info@city.takashima.lg.jp



砥石の歴史

砥石の歴史は古く縄文時代にまでさかのぼります。骨角器や磨製石器類、玉類の製作には欠かすことのできないものでした。5世紀代の奈良県五条猫塚古墳の副葬品に石質の荒いものから微かなものまで6本の粘板岩製の砥石があり、当時から工程あるいは製造品目別に砥石が使い分けられていたと考えられます。平安時代の『延喜式』には、愛媛県の伊予産砥石の名が各所に出てきていて「伊予砥」が著名であったことが分かります。

江戸時代初期の書物である『毛吹草』は、正保2年（1645年）に松江重頼によって編纂された百科全書で、7巻のうち4巻に諸国の名産物が紹介されています。近江の項で高島市に関するものとしてこれまでに歴史散歩で紹介してきた「朽木塗物 盆鉢五器等」、「高嶋硯」のほか、「炭」、「砥石」が記載されています。

また享保8年（1732年）に当時の膳所藩主の命により藩士の寒川辰清が編纂した「近江輿地志略」は、近江全域を対象とした

江戸時代の全国ブランド

朽木産の天然仕上げ砥石

初の地誌で圧倒的な情報量を誇る書物です。この中でも「挽物」、「虎斑石硯」として産地等を含め紹介しています。「砥石」については「朽木よりこれを出す」と注釈をつけています。

職人に求められた仕上げ砥

一般に使われる砥石は荒砥、中砥、仕上げ砥（合わせ砥）の3つに区分することが出来ます。最近では人工的につくられた合成砥や金属製のものなどもありますが、いくら腕自慢、道具自慢の工匠でも、良い鉋や鑿を手に入れても、砥石の質が悪かったり、道具の鋼の質に適した砥石でなかったりすると、決して切れ味よく研げるものではありません。昔の職人さんは道具とともに砥石を吟味し、大金を費やして質の良い天然の仕上げ砥を手に入れたといえます。

仕上げ砥は、一般に京都市右京区

の鳴滝周辺で産出する「本山砥」を最上とし、丹波と近江で産出するものがこれに次々とされています。

仕上げ砥の産地、朽木

朽木産の仕上げ砥が江戸時代初めには産地形成されていたことは明らかですが、採材地や時代別生産量・販路については不明な点が多く、今後の研究が待たれるところです。

朽木下荒川の相岩谷では昭和の中頃まで丹波や京都の業者によって仕上げ砥石の採掘がされ、下荒川に作業所があり砥石の整形をしていました。



トロツコのレールが残る相岩谷の砥石採掘坑

図文化財課
(32) 4467



相岩谷産の砥石

編集感

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

昨年は、高島市でも地方創生元年として、地域資源を活用し、人びとの知恵をつなぎながらさまざまな取り組みが始まりました。暮らしの中の「豊かさ」。暮らしす私たちは、あまりにも当たり前すぎてそれに気づくことが不得意です。しかし、外部から来た友人たちは、私たちに高島の魅力を語り、応援してください。交流が生む新たな発見や相互の信頼関係は、将来に向かって持続可能なまちの原動力になるのだと改めて感じます。(Y)



神聖な丸い餅

餅とは本来は丸いもので、餅を切ることでさえ不吉と忌まれるほど、その丸い形が神聖なものと考へられていました。正月にお供えした鏡餅を割って皆で食べる鏡開きも、「切る」や「割る」という言葉は縁起が良くないとして避けられてきた表現です。

餅が正月のご祝儀として用いられるようになったのは平安時代からとされていますが、正月の鏡餅のほか、3月3日（上巳の節句）の草餅、5月5日（端午の節句）のチマキまたは柏餅、旧暦10月亥の日の亥子餅など、餅と節句との関わりは深いとされています。節句は「節供」とも書き、1年間の無事を願って重要な節目ごとに行うお祭りです。

高島市でのならわし

高島市でも昔から餅や団子が祭りごとやお供養などのために作られてきました。正月には鏡餅をお供え、また地域によっては小さな団子を木の枝に飾った餅花を神棚にまつり、山の神様に芹・鰯などの道具と一緒に十二月神餅をお供えして、豊かで安全な1年になるよう

祭りの陰の主役

お守りとしても

大切にされてきた餅

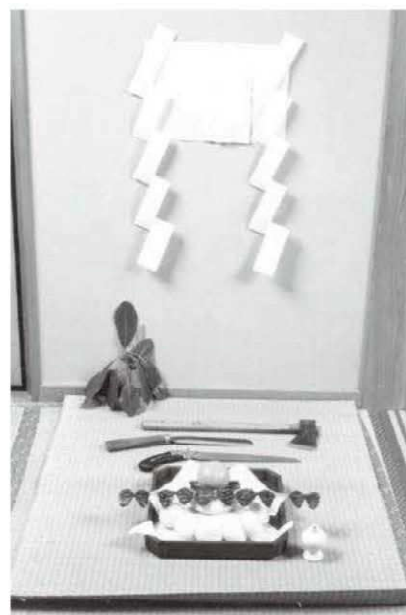
う祈ります。

2月〜3月頃にかけては、各地域の寺院で涅槃会の法要の後に団子撒きが行われます。撒かれるのは紅白の団子、鮮やかな3色の団子などさまざまで、お下がりをいただく農作業や山仕事の際のマムシ除けになるといわれています。そして、無病息災を願って布や毛糸で編んだ小袋に入れて、お守りにしました。また、ころころさん（ころころ団子）と呼ばれるお供え団子は、8月のお墓参りのほか、地域によっては2月の涅槃会、8月16日のお盆の送り団子、8月23日の地藏盆などにも作られます。団子のお下がりはそのままで食べるほか、レース系につないで腰から下げ、やはりマムシ除けのお守りとしてきました。また春祭りの宵宮（前夜祭）に

は、よもぎ団子をこし餡で包んだ宵宮団子（ヨミヤ団子）を持った子どもたちが、「明日のお祭りに来てください」と招待客の家まで案内に行くならわしがあります。

秋祭りには1年の豊作を感謝して、山の神様に鏡餅一重ねを、葉付き大根・丸ごとの小魚などと一緒に供えます。稲刈りを全て終えた後、田の神様の亥の子祭りには、もち米を使ったおはぎなどが作られました。

現代では、餅やそれを加工したお菓子なども手軽に買うことができますので、身近な食べ物になっています。時には餅が大切にされていた昔からの伝統を思いながら、ゆっくり味わってみるのもいいかもしれません。



十二月神餅のお供え

※参考文献※

・「滋賀県の伝統食文化 滋賀県伝統食文化調査報告書 平成6年度〜平成9年度」

・「滋賀県伝統食文化調査 資料編」
ともに1998年／滋賀県教育委員会
・「マキノの里山語りやんせ」
（2004年／マキノ町）

図文化財課 ☎（32） 4467

編集 雑感

今年の初詣は、約800段も続く石段で有名な大津の立木観音へ。4歳の娘が自分一人で階段を登りきった姿を見て「この間までよちよち歩きやったのに」と思いつつ成長を実感しました。▼今号の特集は成人式をとりあげました。いろいろな新成人がおられますが、しっかりとした夢や地元愛を語られる方もおられ胸が熱くなりました。皆さんの夢が実現できるよう祈っています。▼娘の成人まで後16年。夢のある大人に成長してほしいものです。（S）

広報たかしま

平成28年

2

月号 No.193

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒243-0292 滋賀県高島市新旭町北畑5-6-5番地

☎ 0740 (25) 8000 (代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp





踊り子

川上祭がいつから始まったのか、それを明確に記す資料は今のところ見つかっていません。ただ、江戸時代に記された「大江保記録写」（日置神社文書）には、岩剣社（日置神社）の祭礼が、平安時代の長暦3年（1039年）4月に行なわれたという記載があります。また、他の古文書によると天文3年（1534年）に川上庄内の村を5つの組に分けて、祭り

毎年4月18日に、今津町酒波の日置神社、北仰の津野神社両社の春の祭礼である川上祭が行なわれます。氏子の対象範囲はかつて川上庄と呼ばれた現在の今津町北部からマキノ町の一部に広がっていて、市内の春の祭礼の中では比較的祭礼日が早いことから、高島市に春を告げる祭りとして紹介されることもよくあります。

はじまりはいつから？

高島市に春を告げる

川上祭

の当番を順番に回すことになったとい、この時に5つの組分けと、祭礼の作法等が改めて定められています。こうしたことから、川上祭は平安時代に始まり、室町時代には、現在の祭りの組織につながる組分けが確立され、祭りが運営されていたのではないかと推測できます。

また、時代は下がりますが、祭礼の内容を記した資料としては、大正時代ころに書かれたと思われる「津野神社祭礼沿革誌」（津野神社文書）などが残されています。これによると、祭礼日は上の宮（日置神社）は4月初午の日、下の宮（津野神社）は4月初申の日、というように日干支によって定められていましたが、明治5年に干支による決定を廃止し、上の宮は4月21日、下の宮は23日が例祭日となりました。さらにその後、大正2年（1913年）に、両社

あわせての祭礼が18日になり現在に至っています。

「津野神社祭礼沿革誌」によると、明治時代には、神輿渡御の行列に天狗・剣鉾・扇子鉾・獅子頭が供奉し、馬場（祭礼場）では、競馬や餅まきが行なわれていたとのこと。恐らく、現在よりもさらににぎやかな祭りであったことでしょう。

古式を伝えることで知られ、滋賀県選挙無形民俗文化財である川上祭も、長年の間に徐々に祭礼日や行事の変容を受け入れ、現在の祭りの姿になってきたようです。



大幟（おおのぼり）

図文化財課 図(32) 4467

編集感

先日、高島森林体験学校「親子で作る学習机」の取材に伺いました。この事業は、参加者の体験活動を通して、木材の有効活用を進めるもので、伐採から机の製作に至る工程を全4回で行っています。今回はその最終段階でした。昨夏に参加者が汗を流し伐採した杉の木は、製材され、地元大工さんらの指導を受けながら、めいめいに加工し、組み立てていきます。でき上がった机は、何とも言えない温かみのある、量販品にはない輝きを放っていました。人の心と地域の遺伝子が詰まった、「オンリーワンの逸品」です。「僕もこんな机が欲しいな」と少しうらやましく思った瞬間でした。▼4月、新しい仲間との出会い、夢と希望が膨らむ季節です。子どもたちはいろんな可能性に臆することなくチャレンジして欲しい。私、おじさんもワクワクする未来へ一歩踏み出そう!! (Y)



日置前焼の開窯

江戸時代後期（18世紀後半）になると、滋賀県内各地を含め、全国的規模で新規の焼物が開窯されはじめます。その理由は、水釜という窯業技術の革新によって、質の悪い粘土でも良質の陶土を得ることが可能になったこと、菜種や綿実などの灯油の量産によって灯明皿などの灯火具が汎用化したことや、お茶・煙草・酒などが庶民でも楽しむことのできる値段になり、土瓶・急須・湯呑み・火入れ・徳利などが日常の必需品となるなど、焼物の需要が増大したことなどがあげられます。ただ、旧来の焼物の産地だけでは、急増す

江戸時代の焼物 今津町日置前焼

る需要に応えることができなかったために、各地に開窯されたと考えられています。

「茶碗山窯」の発掘

昭和63年に今津町日置前で実施された「茶碗山窯」の発掘調査では、全長9メートル、焼成室が6室、6室のうち最上段の焼成室が、幅3.5メートル、奥行き1.2メートルの連房式登窯が発見されました。江戸時代の信楽窯跡に比べて窯の規模は小さいものです。

比べて窯の規模は小

さいものです。

出土した製品類には、筒碗・丸碗・端反碗・皿・鉢・香炉・灯明皿・灯明台など八器種があります。大半は焼成不良で釉薬や顔料がよく溶けていない失敗作ですが、抹茶茶碗などの茶陶製品が多く、

白化粧を施したもの、鉄絵が描かれたものなど優美な作品が大半で、雑器がほとんどないのが特徴です。出土遺物の年代については、信楽の類似する碗類の形式や意匠などから18世紀後半から19世紀初頭のものと考えられています。

日置前焼のその後

日置前に窯を築いた人物や、製品の流通先などについては、記録等が残されていないので明らかにできません。しかし、江戸時代、若狭の往来や琵琶湖の水運の経路地として繁栄した今津で陶器窯の運営を思い立った商人が、取り組んでみたものの、築窯や製品の準備に思いのほか金がかかり、焼成も失敗し、廃業してしまった可能性も考えられます。

図文化財課

図(32) 4467

編集 雑感

今月の特集では、総合戦略で取り組んでいる「びわ湖高島ブランド戦略推進事業」をご紹介します。この事業では、市民の方自らが記者やカメラマンとなり、高島市の魅力を取材し、発信していくという取り組みをしています。それぞれ魅力的な文章や写真でご紹介されており、まだまだ知らない高島市があるんだと気づかされます。その内容は「高島の食と人」ホームページをご覧ください。ただです、ぜひご覧ください。(S)



茶碗山窯の製品

茶碗山 窯



広報たかしま

平成28年

6

月号
No.197

発行 高島市 編集 政策部秘書広報課
〒510-0101 滋賀県高島市新旭町北畑565番地

☎ 0740 (25) 80004
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp

市内に三つの宿場

高島市内の湖辺を南北にはしる西近江路は、古代より畿内と北陸を結ぶ主要街道でした。近世には北国海道とも呼ばれ、琵琶湖の湖上交通とも結びついて人や荷物が多く行きかい、宿場町が繁栄しました。滋賀県内にあった北国海道沿いの七宿のうち、高島市内にもマキノの海津宿、今津の今津宿、新旭の川原市の三宿がありました。

このうち川原市（河原市）の名前は、中世からすでに登場しています。市内の他の二宿と異なり、



川原市宿場跡付近

ほっこくかいどう
北国海道と

川原市宿

湖に面していないことから他の宿と比べて小規模であったと考えられています。他宿と同様、人馬提供による輸送を行い、南の小松と北の今津を結ぶ陸運の便を図る役目を担っていました。

馬方又左衛門の逸話

川原市にはこの役目を担った馬方の一人である馬方又左衛門の、次のような逸話が残っています。

加賀の飛脚が、京都の屋敷まで大金を届けるため北国海道を旅していました。川原市で馬を乗り継いだ際に鞍に財布を忘れてしまい、和邇の宿で途方に暮れていたところ、川原市の馬方が和邇まで財布を届けてくれました。飛脚は大層感謝しましたが、馬方はお礼も断り、「せめてこれだけは受け取ってほしい」と飛脚が渡した少額の金子もその場で酒と肴に換え、宿の者も交えて酒を酌み交わ

したと伝わります。

この馬方の行いは、中江藤樹の「親には孝行せよ、嘘はつくな、人の物はとるな」という教えに基づいたものであった、と言われています。

この話に登場する馬方は、名を中西又左衛門といい、川原市にある又左衛門の屋敷跡には、藤樹学の権威として知られた西晋一郎氏の揮毫によって建てられた石碑が立っています。

川原市の一里塚

また、川原市には街道の名残として、一里塚跡が残っています。

一里塚とはその名のとおりの一里（約4km）ごとに置かれた塚で、古くから旅人の道しるべとなつて人々の往来を見守ってきました。『高島郡誌』によれば、市内では、木津や海津など七か所に一里塚があったと伝わりますが、そのうち



川原市の一里塚跡

の一つである川原市の一里塚は、平成18年（2006年）に市の指定文化財に指定され、当時の面影を今に伝えています。

園文化財課

☎(32) 4467

編集 雑感

スポーツ、食欲、読書など、秋はさまざまなことに挑戦できる季節です。皆さん今年はどんな「秋」を過ごされるでしょうか。色んな側面を見せる秋ですが、「防災の秋」という呼び方もあるようです。地震や台風など、さまざまな災害が生活を襲っています。枕元に非常用持出袋を置いたり、避難場所を確認したりと、すぐにできることはたくさんありそうです。今、自分にできることは何か、少しだけ考えてみましょう。

(M)



広報たかしま

平成28年

10

月号
No.201

発行 高島市

編集 政策秘書広報課

滋賀県高島市新旭町北畑565番地

☎0740(25) 8000(代)

http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp

地方支配の転換期

平安時代中期（10世紀頃）になると、郡司（郡の役人）による農業の強制労働に反発した農民のたかひにより、律令国家の国・郡制による地方支配は大きな転換点をむかえます。

これらの農民を下人として抱え、新しい農業経営を行う有力農民が登場し、国からの税を逃れ、在地支配を確立するため、貴族や寺社の権威を頼って盛んに所領（土地）を寄付する動きが強まってきました。



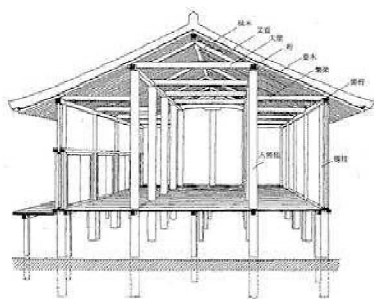
弘川末次6次調査時の大型建物遺構

古代から中世へ 今津町弘川の遺跡群

川上庄（現今津町北小学校区）は、摂関家領（藤原頼通家領）から11世紀中頃には平等院に献上されています。善積庄（現今津町東小学校区）は、12世紀に京都の円勝寺領として領有化されました。

次々発見！ 大型建物

こういった古代から中世への移行期の大型建物が、今津町弘川の今津東小学校周辺の遺跡群から多数発見されています。弘川末次遺跡は、昭和60年度の学校給食共同調理場建設に伴う調査をはじめ公共施設建設に伴い7次にわたる発掘調査を実施し、10世紀後半から12世紀後半にかけての9棟の大型掘立柱建物と、建物を取り囲む柵列（堀）などが検出されました。



切妻二面庇建物図面
『古代の官衙遺跡』I 遺構編
奈良文化財研究所 2003年

昭和60年度に実施した2次調査では、11世紀後半の桁行14・2m、梁行10・9mの約155㎡の面積を有する南北棟の大型建物が検出されています。平成14年度に実施した6次調査では、10世紀後半の桁行16・8m、梁行9・2mの約155㎡の面積を有する東西棟の切妻二面庇の平入りの大型建物が検出されています。この建物と同様の構造をもつ若干小さな建物（約177㎡）が弘川佃遺跡から発見されています。

また平成3年度に弘川友定遺跡では12世紀中頃の桁行17・1m、梁行13mの約222㎡の面積を有し、三面に庇をもつ東西棟の巨大な建物が検出されています。

大型建物は何のため？

一般的に古代官衙（役所）遺跡から発見される東西棟大型建物は、その遺跡の中心となる重要建物とされています。

このように大字弘川の南東部に集中する大型建物の性格については、古代から中世への移行期の郷や庄の管理にかかる中心的施設として機能していたものと考えられます。

図文化財課 ☎(32) 4467

編集 雑感

11月、朽木小入谷の雲海の写真撮影にチャレンジしました。朝4時に起き、暗闇の中、一人車を走らせ小入谷へ。現地へ行くと、たくさんカメラマンがずらりと並ばれていて、注目度の高さを実感。しかし、雲海が見れるかは気象条件次第！ 結局、3回行きましたが満足する幻想的な雲海は見られませんでした(T T)。このままでは悔しいので、来年再挑戦したいと思います。(S)



広報たかしま

平成28年

12

月号
No.203

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒740-0204 滋賀県高島市新旭町北畑565番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp

滋賀県とヴォーリス

滋賀県内には、ウィリアム・メレル・ヴォーリスが建築した「ヴォーリス建築」とよばれる建物が数多く残っています。近代建築として優美な姿や斬新なデザインを今に伝えることから、近年、各地域でその建物の保存や公開活用が進められています。

ヴォーリスは、明治38年（1905年）に英語教師として滋賀県に來日、建築会社などの企業活動を展開し、多くの建築設計を手がけました。



今津ヴォーリス資料館
(昭和40年頃：滋賀銀行今津支店の様子)

高島のヴォーリス建築

今津ヴォーリス資料館

高島のヴォーリス建築

今津町の辻川通りには、3つのヴォーリス建築、「今津ヴォーリス資料館」(大正12年(1923年)建築)、「日本基督教団今津教会」(昭和9年(1934年)建築)、「旧今津郵便局」(昭和11年(1936年)建築)が現存し、現在、通りの一部は「ヴォーリス通り」と呼ばれ、ヴォーリス建築を活かしたまちづくりが進められています。

公開されている今津ヴォーリス資料館は、百三十三銀行今津支店として、ヴォーリス建築事務所的设计により建てられた鉄筋コンクリート造り二階建ての建物です。建築様式は、正面中央の玄関をはさむように建てられた2本の柱に、略式のトスカナ式柱頭を採用するなど、西洋古典様式を継承したデザインにまとめ

られています。昭和8〜53年までは滋賀銀行今津支店として使用され、その後は今津町立図書館として使用されていました。

今津ヴォーリス資料館

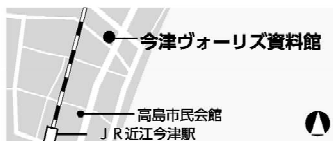
平成15年に建設当初の姿に修復され、「今津ヴォーリス資料館」として新たに生まれ変わりました。往時のヴォーリス建築を体験できるほか、ヴォーリスの生涯や各地域のヴォーリス建築の紹介パネルや模型などが展示、公開されています。カフェも併設され演奏会やミニコンサートが開かれるなど、多くの方の憩いの場として親しまれています。隣接する今津教会、旧今津郵便局とあわせて訪れてみてはいかがでしょうか。

図観光振興課

☎(25) 8040

今津ヴォーリス資料館

所在地/今津町今津175
電話/(22) 0981
営業時間/10時〜17時
定休日/毎週月曜日、
12月28日〜1月4日
(月曜日が祝日の場合は翌日休館)



イベント情報

今津ヴォーリス通り 灯り絵巻
開催日/2月11日(土)〜14日(木)
17時30分〜20時
場所/今津ヴォーリス通り
内容/ライトアップされた3つのヴォーリス建築をご覧いただけます。皆さんおこしください。

編集 雑感

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

本年最初の特集は、今年誕生100周年を迎える「琵琶湖周航の歌」。合唱コンクールなど市内外様々な場所で歌われ親しまれてきたこの歌の歌詞には、それぞれにまつわるお話があるそうです。例えば、4番の歌詞に「瑠璃の花園 珊瑚の宮」とありますが、なぜ海に生息する「珊瑚」という言葉が琵琶湖の歌に出てくるのでしょうか。歌詞の意味を知ること、今まで知らなかった高島市を、また滋賀県を見つけることができるかもしれませんね。(M)

お詫言と訂正

広報たかしま 12月号の歴史散歩に次の誤りがありました。
訂正のうえ心からお詫言いたします。
3段目の()内の数字 (誤) 約177m → (正) 約117m

京と北国を結ぶ北国海道

高島市内を縦断する北国海道は、京と北国を結ぶ街道として人や物が多く行きかい、繁栄してきました。しかし、幕末になり政治情勢が混乱し始め、京の朝廷が政治の表舞台に登場するようになる、京都へ向かう諸大名の通行が増え、北国海道の往来は政治的な色合いを濃くしていきます。

天狗党の乱

特に、元治元年（1864年）の天狗党の乱は、北国海道沿いの村々や宿場の人々にも、急激な時代の変化を感じさせる事件となりました。攘夷を主張した水戸藩の天狗党は幕府に敗れ、当時京都にいた前水戸藩主 徳川齊昭の子である徳川（一橋）慶喜を頼って、上京を始めました。しかし、それに対し、朝廷を守護する役目を負っていた慶喜は、天狗党の思いとは裏腹に、朝廷から天狗党追討の勅許を得て、鎮圧のため出陣します。

越前から敦賀へ入った天狗党を迎え撃つにあたって、慶喜を筆頭に金沢藩や桑名藩など、京都で守

幕末の北国海道

護の任にあたっていた各藩の兵士が、北国海道を続々と北上していききました。このとき追討軍は、今津宿と海津宿に陣を設け宿泊しています。今津では曹澤寺を本陣とし、同行した会津藩士を合わせて、約3000名が今津と周辺の村々に分宿して滞在しました。これまでにない追討軍の迎え入れに、宿泊の前日には曹澤寺が飲み水を届け出るなど、細心の注意が払われました。この時慶喜も利用したとされる飲み水は、現在の辻川通り周辺の湧き水で、今も枯れることなく湧き出ています。



現在の辻川通り

街道が時代の流れを運ぶ

その後慶喜が本陣を海津へと移した後も、今津は海津への補給基地として重要な役割を担いました。また、『高島郡誌』によると海津に敷かれた本陣には大砲が置かれ、湖上からも船が本陣を囲んで警備にあたるなど、物々しい雰囲気の中討伐の指揮がとられたといえます。慶喜は、前線に展開していた金沢藩が天狗党の浪士を召し取るまで、今津に1日、海津に8日間滞在しましたが、その間今津・海津宿や近隣の村々は、人馬の手配や宿泊の受け入れなど、多くの負担を強いられることとなりました。

また、天狗党の乱鎮圧後も、めまぐるしく世情が変化する中、北陸諸国を中心として多くの諸大名が政争の中心となった京への行き来のために北国海道を利用しました。街道の喧騒を通して、人々は

時代が移り変わっていくのを感じていたことでしょう。

図文化財課 ☎(32) 4467



編集感

今年は酉年ということで、何か新しいことに取り組むのにいい時期とされているそうです。市ではちょうど、今年の4月から市の最上位計画である第2次高島市総合計画がスタートします。(P 4 参照) いいタイミングでの実施ですし、よりよい高島市をめざし一生懸命取り組んでいきたいと思います。皆さんも、いいきっかけなので、何か新しいことにトリくんで見たいかがでしょうか。私はトリあえず「とんちゃん」の食べ比べに挑戦したいと思います (^_^) (年男S)